

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域の中で自分らしく暮らしていく事ができるようなわかりやすい言葉で理念をつくっている。		開設(平成18年度)当時の理念をもう一度振り返り、職員全体で新しい理念を検討している。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は玄関前に掲示し、常に目に触れやすくしている。ミーティング、記録、申し送りや日々の関りの場面の時に理念に沿ったケアであるか話し合いを持っている。		1月末に施設移転に向けて、再度自分達の理念を構築していきたい。
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ご家族には介護理念に基づいたケアプランを作成し、実施していることを説明している。ご家族の訪問時や毎日のホーム便りなどで事業所の実践や役割を伝えている。		地域の方にはイベントや町内清掃・花壇作りや管理等に入居者さんと参加していて、理解を得ていると思うがこれからも一層努力をしていく。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩や外出時には近隣の皆さんと気軽に挨拶を交わすことを心がけている。お隣より自家栽培のお野菜などをいただいたりすることがあったり、町内の方より食器やタオルなど寄贈を受けている。		これからもご近所とのお付き合いを大切に、気軽に立ち寄っていただけるようにする。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として、総会に出席したり役割(花壇管理)を持っている。学校、地域の行事には積極的に参加している。		これからも自分達の役割を持って、地域に貢献できるように考えたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	スタッフが研修などで力をつけることが出来る体制が整っている(認知症指導者研修受講1名、リーダー研修受講2名)。来年度はこれらを地域に行かせる事を考えていく。		認知症に関する研修会を地域で開催したい。認知症の相談を気軽に受けられるようにしたい。

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて検討し、努力している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議では当ホームの活動状況、ヒヤリハット事故報告などその時のテーマについてご意見を伺ってサービスに生かしている。外部評価、市の実施指導などの結果報告、改善報告をしている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市役所や区役所の担当者に事業所の実情や困難に思っていることを相談している。</p>	<p>健全な事業所であるためにはわからないこと、不安に思っていることを積極的に聞いていく。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修に参加し、権利擁護については理解を持っているが、まだ活用できるまでにはなっていない。</p>	<p>勉強の機会をこれからも持ち、必要な方には活用して頂けるように支援したい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待について研修で学ぶ機会を持ち、ミーティング・運営推進会議などでも話し合いを持って意識を高め防止を徹底している。</p>	<p>内部研修を含め、繰り返し研修の機会を多くもち、防止の徹底をはかる。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>この二年間は入・退去者はいなく、契約解除もなかった。</p>	<p>重度化や看取りについての対応は時期をみて話し合いを持って同意を得ていく。</p>

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者さんの言葉・態度から訴えられない思いを察する努力をし、入居者さん本位であることを心がけている。日々の生活の中で本人の意思を確認し、自分の意思を出できる関係づくりを心がけている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月通信を発行し、個人の状況を伝えている。毎月の行事等の写真はA4用紙に印刷して送っている。その他個人のアルバム帳を作成し、面会時に見ていただいている。金銭は月末締めで報告し、領収書を送付している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会はつくっていないが、全家族に運営推進会議の会員になっていただき、その席上で意見や要望・提案などをいただいている。ご家族の訪問時の話の中で意見などを聞くようにしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一度ミーティングにおいて、問題点について話し合いを持っている。また緊急の時はその都度話し合いの場を持っている。		日頃より職員の意見や考えを言いやすい関係づくりに努めていきたい。
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者さんの自由な暮らしを出来る限り支えられるように入居者さんの状況・ペースに合わせたローテーションを組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職はほとんどないので入居者さん・ご家族とも馴染みの関係が出来ていると思う。		

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修はなるべく多く受講できるようにしている。それらの研修報告はミーティング時に行い、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の研修会にはなるべく多くの職員が行ける様にしている。知り合いの病院で月一度の勉強会があり、同業者・異業者が集まり意見交換をしている。</p>	<p>知り合いのグループホームとスタッフ研修を交換でやっていくことを考えている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の疲労やストレス・体調不良について気を配っているつもりではあるが、環境面では良い状態とは言えない。</p>	<p>今までゆっくりする休憩室がなかったが、これからはゆっくり休憩出来る場所を確保する。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員のやりがいなど向上心を持てる職場環境・条件について具体的に配慮・工夫をしている。職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場で活かせる労働環境づくりを努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>本人の置かれている状況を理解し、苦しんでいること・困っていること・不安に思っていることを把握し、ご本人の思いを受け止めて安心していただいている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでの家族の苦労や思い、今までの生活のご様子、サービス利用状況などをゆっくりと聞くようにしている。家族の望まれること・不安なことを聞き、安心していただいている。</p>	

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の状況を見極め、優先的に必要なことは何かを話し合っている。出来ないと思うことも安易に逃げずに方策を考えている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族の都合などでやむを得ずご本人が納得する間もなく入居される場合があったが、ご家族やそれまで関わってこられた関係者に来てもらい安心感をもってもらえるようにした。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いに協力しながら和やかな生活を送れるような場面づくりをして、一緒に楽しめる環境づくりをしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの様子や日々の暮らしの出来事や気づきの情報をきめ細かくご家族に伝え、本人を支える協力関係を築こうと努力している。		本人と一緒に支えていく関係づくりが大切だと理解していただけるように正しい情報を提供していく。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族の本人への思い、ご本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけを心がけている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の協力のもと、お寺参りや以前から通っていた美容室に通われている。		

項目			印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係性について情報を共有し、全職員が連携できるようにしている。また心身の状態や気分・感情で日々変化するので注意深く見守っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	当ホームを退所されても訪問したり関わりを継続していた。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分の思いを表現出来ない方や現実を認められない方には出来るだけ、ご本人と向き合い、意に添えるように、出来ることを探っていく。		ご本人の気持ちや思いを受け止めることが出来るように努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人からの情報を活用し、その人の生活歴を細やかに把握し、日々のケアに反映できるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作より感じ取り、本人の全体像を把握している。生活・心理面の観察や出来ないことより出来ることに注目し、その人全体を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族には日頃の関わりの中での思いや意見を聞き、反映している。介護計画の作成について全職員で意見交換・モニタリング・カンファレンスを行っている。		

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ご本人の状況が変化した時、期間の途中であっても全職員が話し合いを持ち、介護計画の追加・変更を実施している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に一人ずつファイルをし、食事・水分量・排泄・バイタルなど日々の身体的状況・日々の様子や本人の言葉などを記録している。勤務前に目を通すように義務づけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等、必要な支援を行っている。		近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイの利用をできるようにグループホームの多機能を強化していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	警察のSOSネットワーク、消防訓練・救急救命講習などの消防署の指導、地域の文化発表会への参加、小学校の行事の参加などで協働していただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	医療機関のデイサービスを利用している入居者さんがいる。訪問理美容サービス・訪問マッサージのサービスを利用されている方もいる。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで情報交換が困難に思っていた問題など相談しやすくなった。		

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにご家族と協力して通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらったりすることがある。複数の医療機関との関係を蜜に結んでいる。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	開設当初より知り合いの認知症専門医療機関との連携があり、相談したり助言をいただいたりしている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携している医療機関より週一度訪問看護を受けていて気軽に相談したり助言をいただいたりしている。その他週二回パートの看護師を配置している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また家族との情報交換をしながら回復状態など速やかに退院支援に結び付けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族に相談できるタイミングを見計らいながら将来の方針について協議をしている。その際には医療機関にも協力をお願いしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	対応してくれる医療機関との連携があり、今後の変化に備えてご家族とも話し合いをもっていく。		本人の気持ちを大切に家族との話し合いをする。入居さんが安心して終末期を過していけるように取り組んでいきたい。

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	新しい環境に入られてもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないようにするために。情報交換をし、職員が機会を作って訪問する。新しい環境に不安なく馴染めるように援助していく。		1月末に当ホームの移転があり、入居者さんがダメージを受けることがないようにスタッフ・ご家族の協力のもと不安なく環境に馴染んでいけるようにしていく。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティングの折に職員の意識向上を図ると共に、日々の関わり方で入居者さんの誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員は入居者さんと過ごす時期を通して入居者さんの希望・関心・嗜好を見極め、それを基に日常生活の中でご本人が選びやすい場面づくりをしている。		毎日の生活の場面でご本人の意思を確認をしてからケアに入るようにしている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはもっているが、時間を区切った通し方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時のご本人の気持ちを尊重し、できるだけ個性のある支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	個別の生活習慣に合わせて支援し、行事や外出時にお化粧やおしゃれなどを楽しんでもらえるように取り組んでいる。ご本人の馴染みの理美容室で希望に合わせてパーマや毛染めをしてもらっている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理・盛り付け・片付けなど入居者さんと共に行い、職員と入居者さんが同じテーブルを囲んで楽しい食事が出来る雰囲気作りを大切にしている。旬の食材を取り入れた食事を工夫し、時には外食や個々のお好きなものを選んでの出前など変化を取り入れている。		

項目			印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>以前はタバコを吸われる入居者さんが居て、職員が預かり、ご本人の希望に沿って他の入居者さんの迷惑にならない場所で吸っていただいていた。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>出来る限り自立排泄できるように入居者さんの排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。安易にオムツを使用していない。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>職員が一方向的に決めず、入居者さんのその日の希望を確認し入っていただいている。また同性介助を実施している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>入居者さんの生活パターンを尊重した睡眠をとっている。就寝前に温かい牛乳を飲んでいただき、気持ちの安定を心がけている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>家族の了解を得て、小額のお金を持っている人も居る。家族よりお金を預かり、管理している人でもご自分の買い物時にはお金を自分で払っていただけようにお金を渡している。</p>		

項目			印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>天気・本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげていく。日常的に散歩・買物・ドライブ・外食などに出掛けることを多く持っている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>一人ひとりの思いや願いが叶えられるように入居者さんとご家族と相談し、協力を得ながら実施に向けて取り組んでいる。</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>入居者の力に応じて暑中見舞い・年賀状を書いてもらったり、手紙のやり取りをしていただいている。電話の対応はその都度支援している。</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>いつでも誰でも歓迎し、出迎えをしている。入居者さんと楽しくゆっくりと過ごしていただけるようにあまり過度に気を遣わないように心がけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体的拘束についてはミーティングや運営推進会議で研修をし、全員がデメリットを認識し身体拘束をしないケアを実践している。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員の見守りの方法を徹底し、また一人ひとりの気分や状態をきめ細かく注意することで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしをしていただいている。</p>		

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者さんと同じリビングで事務作業を行いながらさりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は1～2時間毎に様子を確認するとともに目を覚まされたときは直ぐに対応している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者さんの状況をみながら厳重に保管すべきもの(薬等)、保管管理が必要なもの(洗剤、刃物)、入居者さんが使うたびに注意が必要なもの(裁縫道具、ポット)に分けて管理している。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一の事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、札幌市に提出している。事故原因を全職員で検討し、今後の対策に役立てご家族への説明・報告を行っている。		・夜間の排泄パターンを把握し転倒防止。 ・服薬チェック表による服薬事故防止
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施したり、看護師のスーパービジョンを受けて職員の力がかなりついてきている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害や地震対策のマニュアルを作成し実施しているが、地域の人との協力体制まで十分ではない。		自衛消防隊を結成し、職員が役割の分担を担っている。災害対策については町内会、ご近所の方々に働きかけを実施したい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	様々な役割活動や自由な外出によりリスクが高くなるものの、入居者さんの今の出来ること、やりたい気持ちを大切に、満足された表情をご家族にも見ていただき説明している。		入居者の状況を把握し、危険が想定される時はご家族に説明し、安心が過度にならないケアに取り組んでいく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	普段の状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時にはバイタルチェックを行い記録をつけている。状況によっては医療機関を受診する。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書はケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬は本人に手渡し、きちんと服薬できているか確認できるまでそばを離れない。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操・散歩・家事活動などを適度に設けて、自然排泄できるように取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行ったりしている。就寝前には義歯の洗浄(ポリドント)をしている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	市より感染症の発生情報やマニュアルなどが届くので全職員は目を通し、学習の機会を持ち早期発見、早期対応に努めている。入居者さん・全職員はインフルエンザの予防接種を受けている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板・ふきんは每晚漂白し清潔を心がけている。冷蔵庫も点検・掃除し、食材の残りは鮮度や状況を確認し冷凍したり処分したりしている。		

項目		印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p> <p>明るい雰囲気のある玄関になるように花を生けたり手作りの飾り物などを置いて季節感を出している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>食器を洗う音、調理中の匂い、心地よい音楽やテレビの音、リビングから見える庭の花や鳥、季節感のある食卓など五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>限られた共有スペースの中で一人になれる場所が作られていない。</p>		<p>移転により、少し広いスペースになるので入居者さんが時には一人で過ごせる場所を確保したい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>タンス・イス・ベッドなど入居者さんの馴染みの物を持って来ていただいている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>リビング・居室など換気に心がけている。入居者さんの発汗の様子・冷え等に注意し温度調整をしている。冬は加湿器を使用し、湿度管理を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p> <p>床はバリアフリー、共有部分には手すりを設置し安全をはかっている。</p>		

項目			印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人にとって「何がわからないのか」「どうしたら混乱なく出来るのか」を職員全体で話し合い、本人の不安材料を取り除き力を取り戻せるように対応している。		重度化され混乱が大きくなることが予想されるがご本人の不安を自分のこととして受け止め、安心な生活を支えていけるようにしたい。
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に花を植えたり畑を作ったりと入居者さんが日常的に活動できる環境を作っている。車イスの方も外の空気や景色を楽しめるように庭にテーブルとイスを置いて活用している。		

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている ○ 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○ ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

開設して約四年になる小さなグループホームですが、開設以来ずっと同じ職員が関わってきていることで入居者さん・ご家族の皆さんと馴染みの関係がしっかりと出来ていると思います。その中で私達は「馴れ合いになって、自分本位の仕事をしないこと」「入居者さんの一人ひとりの尊厳を守ること」「一人ひとりのペースを大切にすること」「一人ひとりのプライバシーを尊重すること」を心がけて毎日楽しく仕事をさせていただいています。一月末には移転になり、新しい環境の中で入居者さん・職員が共に支え合って安心して生活できる終の棲家を目指して行きたいとおもっています。